

事業名	環境教育推進費	財務コード (事業)	388701
-----	---------	---------------	--------

細事業名	環境教室開催費
------	---------

担当部課室	森林環境 部 森林環境総務 課 企画 担当 (内線)	6076
-------	----------------------------	------

事業の概要

実施期間	始期 H9 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)		
事業の目的	誰(何)を対象に 児童、生徒及び一般県民	その対象をどのような状態にして 環境問題を地球規模で考え、身の回りのことから実践していくことの大切さを学習している	結果、何に結びつけるのか 環境に配慮した日常生活の実践
	環境科学研究所の設置目的の一つである環境教育の推進を図り、環境問題を地球規模で考え、身の回りのことから実践していくことの大切さを伝えるため、学校や各種団体を対象として、環境について学ぶことができるプログラムを実施する。 (1)環境教室(各クラス40名で ~ をローテーションで受講) ・プログラム内容 地球環境学習:多様な視点から環境問題について参加者が主体的に考え、日常行動を環境に配慮したものとする研修 自然観察学習:研究所周辺の貴重な生態観察 環境学習室、環境情報センター等での機器や図書等を活用した学習 ・H24活動実績:(団体数)189団体 (参加人数)12,500人 (2)生態観察園ガイドウォーク ・プログラム内容:生態観察園のガイドツアーを通して、富士山麓の自然環境や、植生遷移、生態系の仕組み等を学習する ・H24活動実績:(実施回数)220回 (参加人数)579人 ・実施期間(H25):計57日間(5回/日実施) 4/20~5/6(土・日とゴールデンウィーク期間中:12日間)、7/13~28(土・日・祝日:7日間) 8/1~31(水曜日を除く毎日:27日間)、9/1~29(土・日・祝日:11日間)		
事業の内容 主に 24年度			
根拠法令等			

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と 目標の実現度	23年度	24年度		25年度	26年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標 ・環境教室参加者数 ・ガイドウォーク参加者数 活動指標達成率 (実績値/目標値)	11,394人 567人 計11,961人	11,500人 500人 計12,000人	12,500人 579人 計13,079人	11,000人 550人 計11,550人	11,500人 500人 計12,000人	活動指標 目標設定の考え方 過去の実績を参考にし、H26.4に研究所を改編し、富士山科学研究所(仮称)として整備する予定。 データの出典等 環境科学研究所の年間計画
			109.0 %			
成果指標 成果指標達成率 (実績値/目標値)						
			%			
決算額、予算額 (千円) うち一財額	310 310	258 258		254 254	255 255	成果指標 目標設定の考え方 データの出典等 成果指標によらない成果 引率者に対するアンケートでは、「自然観察学習や種の模型づくりに、生徒がとても興味を持った。特に、自然観察はとても楽しく、富士山の自然について理解を深めることができた」、「地球環境学習では、司会の先生から興味深い話がたくさん聞け、児童の環境についての関心もより深まり、日常を振り返ることができた」等の感想が多く寄せられている。
所要時間(直接分)	1,454 時間	1,043 時間		902 時間	902 時間	
所要時間(間接分)	0 時間	0 時間		0 時間	0 時間	
所要時間計	1,454 時間	1,043 時間		902 時間	902 時間	
人件費(1人1単位:千円 @2,050円×所要時間)	2,981	2,138		1,849	1,849	

これまでの事業の見直し・改善状況

平成19年度において、小学生向けネイチャープログラムの開発及び研修室の学習機器の改修を行った。

活動量と成果の判断(平成24年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか。(「活動指標の達成率」等から、事業の活動量を判断)

数値判定	活動量に係る一次評価	活動量に係る一次評価の考え方	数値判定と一次評価とが異なる場合等に記入すること
H24年度活動指標達成率			
b	b		

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上)。 b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満)。 c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)。 d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)。

(2) 事業は意図した成果を上げているか。(「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)

数値判定	成果に係る一次評価	成果に係る一次評価の考え方	必ず記入すること
H24年度成果指標達成率			
	b		引率者に対するアンケートでは、「自然観察学習や種の模型づくりに、生徒がとても興味を持った。特に、自然観察はとても楽しく、富士山の自然について理解を深めることができた」、「地球環境学習では、司会の先生から興味深い話がたくさん聞け、児童の環境についての関心もより深まり、日常を振り返ることができた」等の感想が多く寄せられており、環境問題を地球規模で考え、身の回りのことから実践していくことの大切さを伝える、という本事業の目的に鑑み、意図した成果をほぼ上げている。

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上)。 b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満)。 c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満)。 d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)。

見直しの必要性(平成26年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部評価結果)

見直しの必要性	説明	以外の判断項目
有	富士山の世界文化遺産登録に伴い、環境科学研究所を改編し、富士山科学研究所(仮称)へ整備する計画が検討されており、従来の環境教育推進事業についても見直しが行われる予定である。環境教室事業についても、現在のメニューを整理した上で、今後更なる高まりが予想される富士山学習へのニーズに対応したプログラムを取り入れていく必要がある。	b・d

・「以外の判断項目」の欄
 必要性(a.目的の達成 b.新たな課題への対応 c.対象の変化 d.ニーズの変化 e.法律・制度の改正) 官or民(f.民間等実施) 官の役割分担(g.市町村等へ移管) 効率性(h.外部委託 i.経費節減 j.類似事業と統合・連携 k.所要時間の縮減 l.プロセスの改善) m.その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価

見直しの必要性	説明	以外の判断項目
/	/	/

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする。

見直しの方向(平成26年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等
実施方法等の変更	環境問題についての啓発的な内容に加えて、参加者の富士山や周辺地域の環境に関する理解を促進する内容により力点を置いた説明を行うため、所内の研究員にそれぞれの専門的な立場(火山、自然、共生等)から研修資料についての監修を受け、最新の知見に基づいた富士山の科学的な側面を更に盛り込んだプログラムとする。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること。なお、見直しがない場合は、「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること。